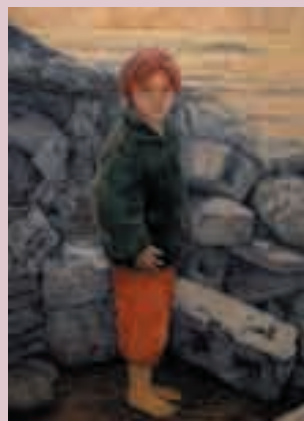


# わたしの作品



【洋画】市展賞  
立ちすくむ、子ども

【相生町4丁目】  
伊藤広美さん



職場を退職して、なにか趣味を始めようと思いい、以前から興味のあった油絵を習い始めました。昨年に続き二回目の出展ですが、今回はじめて「市展賞」をいただき、とてもよきこんでいます。また、油絵を描いていくうえで、良い励みとなりました。まだまだ新米ですが、自分のうったえたいものを表現し伝えることができるような作品を目指し、これからも絵を描き続けていきたいと思っています。



【吉方】  
中江美千代さん

## 【工芸】市展賞 はくばい うた 白梅の詩



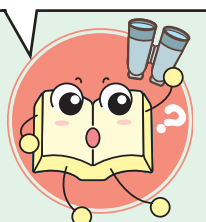
藍染の作品展を見学したことがきっかけで始めました。もう六年になります。この作品は、オリジナルの模様を考え作り続けることに悩み、ひとつの節目にしようと思った思い入れの深いものです。この作品が市展賞に入選したことで、私なりの藍染の作り方に気付くことができました。これからも、私にできる精一杯の作品を作りたいと思います。

市民図書館の  
司書が調べます

# まちで見つけた「なんでだろう〜？」

鳥取砂丘に、有島武郎

の歌碑が  
二つもあるの、  
なんでだろう？



有島武郎が鳥取砂丘を訪れたのは大正十二年四月三十日のことです。帰京したあと、有島は知人に次のような手紙を送っています。

「山陰は思つたよりあかるいよい處でした。鳥取の砂丘に唯一首だけ出来たのを濱坂の遠き砂丘の中にして侘ひしき我れを見出でつるかな」  
『有島武郎全集』第十四卷(昭和六十年、筑摩書房・刊)  
有島は、旅行中にできた歌はこれだけだったと書いています。そして、一カ月後の六月九日、彼は軽井沢の別荘で婦人記者だった波多野秋子と心中し、鳥取市民にも大きな衝撃を与えたのです。



砂丘・旧砲台にある歌碑



武郎・晶子の歌碑

砂丘の旧砲台にある歌碑は、鳥取文化財協会が有島をしのんで建立し、昭和三十四年四月十九日に除幕式を行ったものです。碑面には有島の妹である山本愛子さんの書で、「濱坂の遠き砂丘能那可尔してさ悲し記我を見てけるかな」と刻まれています。しかし、

べた歌碑を建立。有島の命日にあたる六月九日に除幕したのでした。新たな碑には遠山さんが発見した有島の直筆色紙がそのまま使われ、「濱坂乃遠き砂丘の中尔して侘ひしき我れを見出でつる可奈」と刻まれています。

先の手紙からも明らかのように、歌碑の歌は有島が実際に詠んだ歌とは少し違っていました。そこで、そのことを早くから指摘していた鳥取大学名誉教授の遠山正瑛さんは、平成三年、旧砲台からほど近い砂丘の高台に有島武郎と与謝野晶子の二人の歌を並

晶子の歌は、「沙丘踏み左ひし支夢二与可れるわ連と覚えて涙流る」というものです。これは、昭和五年五月二十五日、夫・鉄幹とともに砂丘を訪れた与謝野晶子が有島を想って詠んだ歌といわれ、中山町の日本画家・渡辺正子さん(故人)の筆によるものです。